

## 雪舟と雲谷派

2026年11月17日(火)～12月20日(日)

日本絵画史を代表する水墨画家・雪舟等楊(1420～1502?)は、大内氏によって治められていた室町時代の山口をその活動の中心としていました。また江戸時代には、萩藩のお抱え絵師である雲谷派がその画風を継承して活躍します。この展示では、雪舟筆「山水図巻」など、重要文化財指定の3点の雪舟作品のほか、初期雲谷派を代表する画家である雲谷等顔(1547～1618)や雲谷等益(1591～1644)の優品をご覧ください。



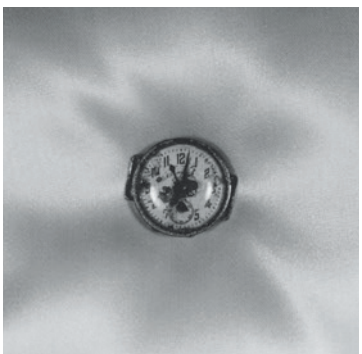
雪舟等楊 《山水図巻》 室町時代 15世紀 紙本墨画 山口県立美術館蔵 重要文化財

## 「もの」を撮る

2026年11月17日(火)～12月20日(日)

布の上に置かれた、汚れた時計。原爆が投下された爆心地に近い長崎市上野町で掘り出されたこの時計の針は、爆発の瞬間である11時2分を指したまま止まっています。写真家・東松照明(1930～2012)は、止まった時間を永遠にとどめるかのようにこの時計を撮影しました。

本展示では、「もの」を写した写真作品をご紹介します。日用品や使い古された家具、戦争の記憶が刻まれた「もの」は、その背後にある歴史や物語を私たちに静かに語りかけます。



東松照明  
《『11時02分』NAGASAKI』(1966)より  
1961年 セラチン・シルヴァー・プリント  
山口県立美術館蔵

# 2026 - 2027

schedule  
山口県立美術館 令和8年度展覧会スケジュール

|     | コレクション展示                     |                                                             |                                                             | 特別展示                                                     |
|-----|------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 9月  | 休室                           |                                                             |                                                             | 特別展<br>7/18(土)～10/12(月・祝)<br>金曜ロードショーとジブリ展               |
| 10月 |                              |                                                             |                                                             | 全館休館10/13(火)～11/16(月)                                    |
| 11月 | 11/17(火)～12/20(日)<br>雪舟と雲谷派  | 11/17(火)～12/20(日)<br>戦前・戦後の<br>香月泰男と松田正平 II<br>1950s        | 11/17(火)～12/20(日)<br>「もの」を撮る                                | 11/26(木)～12/13(日)<br>第79回山口県美術展覧会                        |
| 12月 |                              |                                                             |                                                             | 全館休館12/21(月)～1/7(木)                                      |
| 1月  | 1/8(金)～2/7(日)<br>雲谷派の系譜      | 1/8(金)～4/4(日)<br>戦前・戦後の<br>香月泰男と<br>松田正平 III<br>1960s～1970s | 1/8(金)～4/4(日)<br>明治から<br>昭和初期まで<br>の洋画<br>ー山口ゆかりの<br>画家を中心に | 1/21(木)～24(日) 第79回山口県学校美術展覧会<br>1/29(金)～31(日) 山口3大学合同卒業展 |
| 2月  | 2/9(火)～3/7(日)<br>はじめての「中国画題」 |                                                             |                                                             | 特別展<br>2/9(火)～3/28(日)<br>超絶リアリズム絵画<br>ホキ美術館所蔵名品展         |
| 3月  | 3/9(火)～4/4(日)<br>防長の狩野派      |                                                             |                                                             |                                                          |

### Information

■休館日 月曜日  
※祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。  
※12月7日(月)、2027年3月1日(月)は開館。  
臨時休館  
※10月13日(火)～11月16日(月)、12月21日(月)～2027年1月7日(木)  
9:00～17:00(入場は16:30まで)  
■開館時間  
■料金 コレクション展:一般400(320)円 学生250(200)円  
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。  
※令和8年(2026年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。  
特別展ほか、展覧会によって料金が異なります。



山口県立美術館の公式アカウントはこちらから



HP



山口県立美術館  
Yamaguchi Prefectural Art Museum  
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1  
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790  
https://y-pam.jp

Yamaguchi Prefectural Art Museum

# 146

Contents

コレクション展

はじめての「中国画題」  
雪舟と雲谷派  
「もの」を撮る

特別展

超絶リアリズム絵画  
ホキ美術館所蔵名品展

HEART2026 第79回山口県美術展覧会  
年間スケジュール



小田海僊 《飲中八仙図》 1844年 絹本墨画淡彩 山口県立美術館蔵

山口県立美術館ニュース「天花」

# 天花

TENGE

Collection

コレクション展

## はじめての「中国画題」

2027年2月9日(火)～3月7日(日)

### 表紙作品解説

小田海僊  
《飲中八仙図》  
1844年  
絹本墨画淡彩  
山口県立美術館蔵

小学生の頃、『ミッケ!』という絵本に夢中になりました。写真の中に隠されたものを探す「遊べる絵本」です。カラフルなおもちゃ箱やお菓子など、大好きなものが散りばめられた空想的な画面は、眺めているだけでも楽しく、どこに何があるのか覚えてしまうほど惹き込まれました。

この作品を見ていると、そんな『ミッケ!』を思い出します。画面にはたくさんの人が描かれています。数えてみると全部で27人。馬に乗る人、杯を掲げる人、寝入ってしまった人――。人物だけでなく、花瓶や屏風、香炉、巻物など、さまざまな器物も描かれており、見飽きることがありません。

この作品は、中国・唐時代の詩人、杜甫が詠んだ「飲中八仙歌」を画題としています。皇族や宰相、書家など、名の知れた大酒飲み8人が登場し、それぞれ酒にまつわる逸話と個性的な酔態が描かれています。

8人の酒豪を探してみましょう。たとえば、地面に座って筆を振るう人物。足元には帽子が脱ぎ捨てられています。「飲中八仙歌」のなかで、書家の張旭は、酒に酔って王の前で頭をさらしたと詠まれています。これは無礼な振る舞いですが、3杯の酒を飲めば「草聖(草書の名手)」と称された張旭の筆づかいはいかに鮮やかで見事だったといえます。

人物や器物を目で追っているうちに、画面のあちこちから物語が立ち上がってきます。

(山口県立美術館 学芸員 長井 里緒奈)

特別展

# 超絶リアリズム絵画

## ホキ美術館所蔵名品展

2027年2月9日(火) — 3月28日(日) 【休館日】月曜日  
※ただし3月1日、22日は開館



三重野慶 《言葉にする前のそのまま》 2017年



五味文彦 《レモンのある静物》 2009年

【観覧料】  
一般 1,600 (1,400) 円  
シニア・学生 1,400 (1,200) 円

※シニアは70歳以上の方、( )内は20名以上の団体料金。  
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

【主催】山口県立美術館、yab山口朝日放送、朝日新聞社  
【企画協力】ホキ美術館、TNCプロジェクト  
【特別協力】エフエム山口

世界でもまれな、写実絵画を専門に収蔵する美術館として知られるホキ美術館。この展覧会では、日本における写実絵画ブームを牽引してきた同館が所蔵する約500点ものコレクションの中から、厳選した作品をご紹介します。

写実絵画とは、人物や静物、風景など、対象を見たまに描いた作品のこと。その仕上がりは、一見実物と見間違えそうなほどにリアルです。しかし、写真のごとく忠実に再現する事だけが写実絵画の目的ではありません。画家は一点の作品のために長い時間を費やして対象と向き合い、その存在を写しとるべく一筆一筆絵具を重ねていきます。そうした緻密な作業を積み重ねることで、リアルを超えた迫真の存在感を画面に宿らせていくのです。

野田弘志や森本草介など写実絵画の巨匠から、みずみずしい感性で現代をとらえる若手まで、現代日本の写実絵画を代表する作家たちの手になる魅惑の作品群を通して、奥深く豊かな写実絵画の世界をお楽しみください。



生島浩 《5:55》 2007-2010年



森本草介 《パリガールの村》 1999年

\* 掲載作品はすべてホキ美術館蔵

### ホキ美術館

ホキ美術館は、2010年11月に千葉市に開館しました。そのコレクションは、創設者である故保木将夫氏が収集した写実絵画作品約500点から成り、地上1階、地下2階の三層計500メートルにわたる回廊型のギャラリーでは、常時、約60名の現代作家による写実絵画の名品約120点が展示されています。



ホキ美術館



## ここにアート。ここにもアート。

ハートのなかには、アートがある。ちょっといいコト、発見したでしょ？ 2026年度も、県立美術館は“芸術とは”なんて気難しい表情をやめて街にも飛び出し、山口の中心をアートにします。“ものづくりとコミュニケーション”をテーマに、展覧会やマーケット、ワークショップといったプロジェクトを展開。あなたも、ものづくりでつながるアートな山口を楽しんでください。

## 第79回 山口県美術展覧会

2026年11月26日(木) - 12月13日(日)  
9:00 ~ 17:00 (入場は16:30まで) 【休館日】11月30日(月)

山口県美術展覧会(県美展)は、絵画・彫刻・書といったジャンルの枠を超えて、自由に表現された作品が魅力の公募展です。山口県在住の作家を中心に公募された作品のなかから、2日間にわたる審査によって入選作が決定され、展示室は創作意欲にあふれた作品でいっぱいになります。

会期中には、県美展作家たちの作品を実際に買うことができる「アート・マート」のコーナーも。展示室の内外で、お気に入りの作品を探してみてください。

### 審査会

審査はすべて公開で行います。ぜひ一度、スリリングな審査の現場に立ち会ってみてください。出品していない方も傍聴いただけます。要事前申込み・参加無料。詳しくは、美術館ウェブサイトか県美展要項にてご確認ください。

日時／11月10日(火) 9:30~17:00、11月11日(水) 9:30~12:00

会場／山口県立美術館

審査員／川浪千鶴(インディペンデント・キュレーター)

成相肇(東京国立近代美術館主任研究員)

保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター【館長】)

【観覧料】一般 600 (480) 円／学生 500 (400) 円

※( )内は20名以上の団体料金。  
※70歳以上および18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方と、その介護の方1名は無料。

【主催】山口県

### 講評会

審査員を講師としてお招きし、第79回県美展入選者を対象に、特別展示および受賞作品を中心とした講評会を行います。  
※対象者以外で傍聴をご希望の方もご参加いただけます(要観覧券)。

日時／11月29日(日) 13:30~15:00

会場／展覧会会場

講師／川浪千鶴、成相肇



### 特別展示

ラプソディ  
(13000pcs×1.5h÷5h/day÷  
365days=10.7yr)

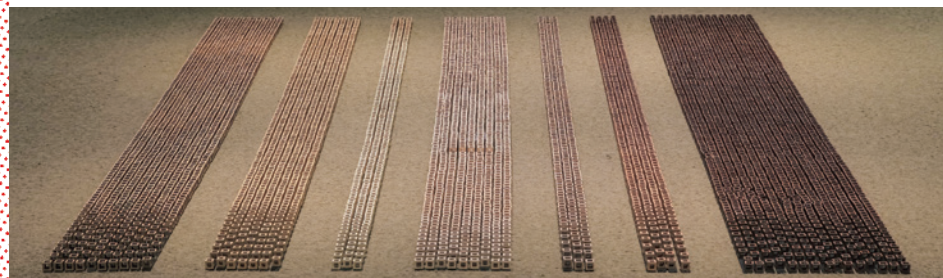
前回の大賞受賞者、松本一雄氏による新作を展示します。

会期／第79回山口県美術展覧会に準ずる

会場／山口県立美術館 展示室D奥



松本一雄氏



第78回山口県美術展覧会 大賞受賞作品 松本一雄《マーチ》

### HEART企画 日々の暮らしとアートがつながるプロジェクト@商店街

#### LIFE MAKER —エンドレスな日々の寄せて—

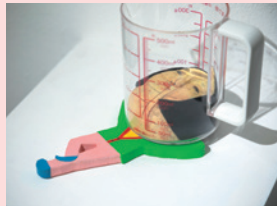
会期／2026年11月5日(木)~12月27日(日) 11:00~18:00

〈上記期間内の木・金・土・日のみOPEN〉

会場／HEART SPOT 102  
(山口市米屋町商店街内 山口銀行米屋町出張所前)

「LIFE MAKER」とは、木彫を中心に活動するアーティスト・随行奏子による造詣。日々の生活の中で沸き起こる感情・思考・感覚を作品に昇華しようと取り組んだシリーズです。おかっぱ頭の主婦と生活用品などが織りなす、ユーモラスでちょっと切ない「日常」を、「日常」の舞台である商店街でお楽しみください。

《作って食べて生きる》  
(一部)2025年  
クスノキ、合板、  
作者使用済み調理器具、  
アクリル絵具  
撮影:寺岡海



随行 奏子(すいぎょう かなこ) 略歴

1980年広島県生まれ。主な受賞歴として、第76回山口県美術展覧会 優秀賞(2024年)、京都国際映画祭2018 クリエイターズ・ファクトリーアート部門 優秀賞(2018年)など。